



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—原油価格の反発を好感し大きく上昇—

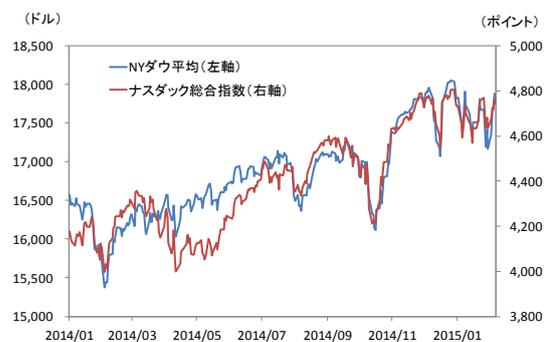
	前週終値	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日	2月6日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,164.95	17,361.04	17,666.40	17,673.02	17,884.88	17,824.29	+659.34	+3.84%
騰落幅		+196.09	+305.36	+6.62	+211.86	-60.59		
S&P500	1,994.99	2,020.85	2,050.03	2,041.51	2,062.52	2,055.47	+60.48	+3.03%
騰落幅		+25.86	+29.18	-8.52	+21.01	-7.05		
ナスダック総合指数	4,635.24	4,676.69	4,727.74	4,716.70	4,765.10	4,744.40	+109.16	+2.36%
騰落幅		+41.45	+51.05	-11.04	+48.40	-20.70		

<先週の概況>

先週の米国株式市場はダウ平均が週間で659ドルと4%近い大幅上昇となりました。前週に一時1バレル43ドル台まで低下した原油先物価格が急反発し、50ドルを回復したことが好感されました。

S&P500、ナスダック総合指数も上昇率はダウ平均には及ばないものの、大きく上昇しました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.5	3.2	2.4%
S&P500	17.2	2.8	2.1%
ナスダック総合指数	20.2	3.5	1.2%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年2月6日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

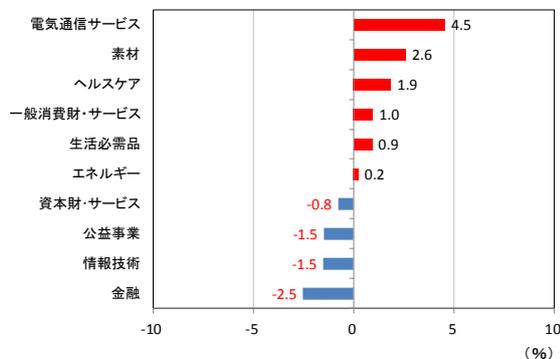
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

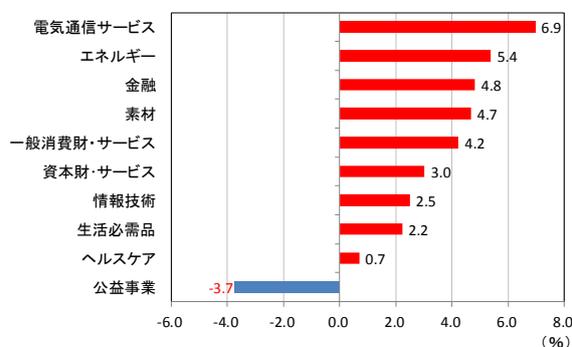
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(2/2-2/6)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率(%)
DIS	ウォルト・ディズニー	12.2
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	7.9
CVX	シェブロン	6.9
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	6.9
JPM	JPMorgan Chase & Company	6.5
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	6.4
PFE	ファイザー	6.1
T	AT&T	5.9
AXP	アメリカン・エクスプレス	5.4
MSFT	マイクロソフト	5.0

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(2/2-2/6)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率(%)
MRK	メルク	-2.5
NKE	ナイキ	-0.5

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中、28銘柄が上昇しました。中でもウォルト・ディズニー (DIS) は10-12月期の決算で売上や1株利益が市場予想を上回ったことで大きく上昇しました。また、原油価格の反発を受けシェブロン (CVX) やエクソン・モービル (XOM) も反発しています。

<下落>

週間で下落したのはメルク (MRK) とナイキ (NKE) の2銘柄にとどまりました。

先週発表された主な経済指標

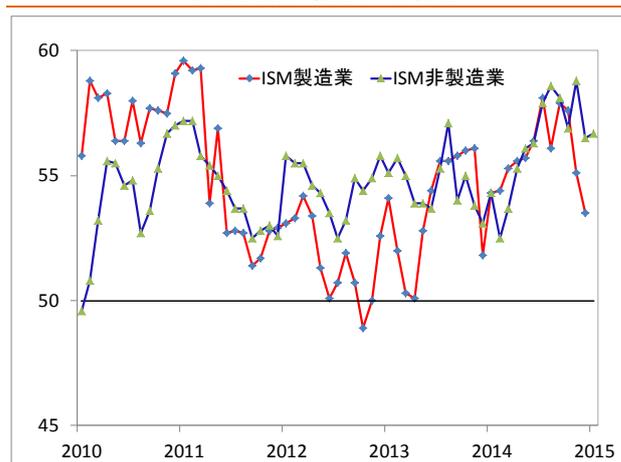
ISM 製造業景況感指数 1月 53.5 市場予想 54.5 前月 55.1 (下方修正)

ISM 非製造業景況感指数 1月 56.7 市場予想 56.4 前月 56.5 (上方修正)

2日に発表された1月のISM製造業景況感指数は53.5と前月から悪化し、市場予想を下回りました。指数を構成する5項目のうち在庫を除く4項目が低下し、特に新規受注が前月から4.9ポイントの悪化となりました。一方、4日に発表された1月のISM非製造業景況感指数は56.7と前月から改善し、市場予想を上回っています。

製造業指数は足元まで3ヵ月連続で低下しており、景況感の低迷が懸念されます。

ISM景況感指数(製造業・非製造業)



(出所)マネックス証券作成

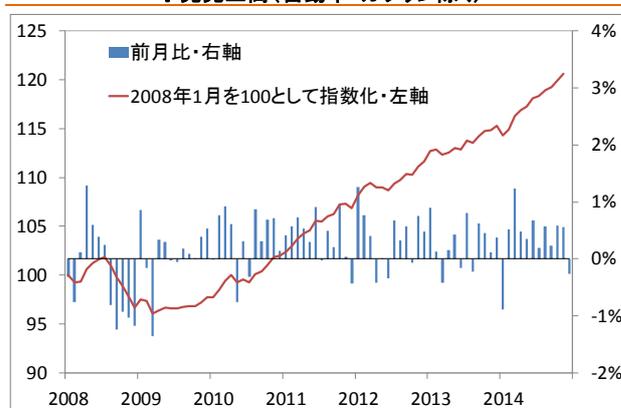
今後発表される主な経済指標

2月12日 1月分小売売上高(除く自動車・ガソリン) 市場予想 +0.4% 前月 -0.3%

12日に1月分の小売売上高が発表されます。米国の個人消費は堅調に推移していると思われますが、12月は自動車とガソリンを除いた売上高が前月からマイナスとなりました。

ガソリン価格の下落によって、ガソリンを含んだ売上高は引き続き減少が続くと予想されていますが、ガソリンや自動車を除いた売上高が市場予想通りプラスに転じることができるか注目されます。

小売売上高(自動車・ガソリン除く)



(出所)マネックス証券作成

マーケットビューー高値更新には外部環境の好転待ちかー

先週のマーケットビューーでは、企業業績やテクニカル指標から見ると短期的な底打ちに近いのではないかと記しましたが、幸いにも株価は大きく上昇しました。

このまま史上最高値更新を期待したいところですが、2日に発表されたISM製造業景況感指数で前月からの悪化に歯止めがかからなかったこと、ギリシャのユーロ離脱問題のくすぶり、原油価格底入れの不透明感などから、積極的に高値更新を狙っていく状況にはなりづらいと考えています。

ただ、企業の決算発表は概ね好調に推移しており、トムソン・ロイターの6日時点の集計ではS&P500採用企業の増益率は前年同期比6.4%となる見込みで、前週時点の5.3%から上方修正されています。ひとまずは現在の株価水準で状況の好転を待つといった展開を予想しています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会